

2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/22

団体名	NPO法人 Sharing Caring Culture	活動タイトル	子ども多文化交流事業 kruco×kruco
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景
●地域の望ましい社会状況	当団体の実現したいビジョンは、「多様な価値観を認め合い、誰もが自分らしく輝く社会」である。具体的には、国籍、人種、宗教、世代、経歴など主に文化的な背景の異なる人たちが持つ違いについて、積極的に認め合い、「豊かさ」と肯定的に捉えてシェアし合う社会であり、それぞれの個性を伸ばすことを重視するような社会である。世界には、多種多様な食習慣、言葉、伝統的な行事があり、一人ひとりが母文化を持っている。現在、日本に在住中の外国につながる人々が持つそれぞれの母文化を尊重し合い、それらを地域でシェアしながら、皆が自分のアイデンティティを大切にできる懐が深く豊かな社会づくりをめざす。		 <p>タイ料理オンライン親子クッキング</p>
●団体の社会的役割	当団体の社会的役割（ミッション）は、「外国籍の親や子どもの参加を促しながら、「違い」を認め合う中で子ども達を育む」ことである。具体的には、以下のような取り組みを推進する。 1) 外国籍や外国につながる児童が自分の母語や母文化、ルーツに誇りを持ってよう、地域の中で多様な価値観にふれ、認め合う場をつくる。 2)日本語の能力や国籍にとらわれず、自分らしさを持った個人として、個性を最大限に活かせる場をつくり、特に、外国籍の母親とその子どもたちの参加を促すことで、外国籍や外国につながる人々の潜在能力を地域で発揮する活動を行う。		
●団体の活動基盤	●人材の確保と育成：活動基盤の強化として、外国人のプレイヤーと広報・ファンドレイジング等を担える常勤スタッフを確保し、団体の安定的な運営を担える人材に育成する。 ●物的資源：事業で活用する食材や物品について、協賛企業からの寄付等で賄えるようなネットワークを構築する。 ●活動資金：事業規模を拡大し、団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（会費・寄付・自主事業）の比率を全体の80%にまで高める。 ●ナレッジ：多文化交流事業の中で培ったノウハウを団体の事業運営・人材育成・ボランティアマニュアルに反映させることを目指し、事業運営とスタッフのスキル向上のサイクルを確立する。		
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>「2019年度子ども多文化交流事業」は、全9回（料理3回、世界の行事及び文化体験4回、多言語読み聞かせ2回）実施し、外国につながる児童は延65名、日本人児童は延38名、参加児童は全部で103名となりました。コロナ禍により3月以降、3回の企画を中止することになりましたが、それでも年間100名以上の児童が参加したこと、その半分以上は外国につながる児童であったことは想定外の社会情勢の中で企画運営メンバー及び講師が大健闘した結果といえます。</p> <p>今年度の後半は、Peatixでのイベントチケット販売にもチャレンジし、オンライン電子決済システムを利用しながら、オンライン親子タイ料理を実施しました。社会状況が不安定とはいえ、まずはできることをやってみよう運営メンバーが知恵を出し合い、企画を進めることができたのは、まだ基盤ができて始めたばかりの組織にとって、とても良い経験になりました。</p>		<p>●異文化への興味、関心、好奇心に火がつく ●多様な文化、価値観に出会い、違いに気づく →毎回、講師が企画を考える時に意図的に違いに気づく仕掛けを意識してもらっていますが、インドの文化体験の時に講師がヒンディー語で子どもたちの名前を書いていくと、次々に自分の名前を書いて欲しいという声が上がりました。インドでは、スプーンを使わず手で食事をするなど、身近な習慣にも驚いたと子どものアンケートから読み取ることができました。 ●同じ境遇の外国籍や外国につながる子どもに会い、安心感が得られる →外国人児童の中には、日本の公立小学校になじめず、ホームスクーリングをしている児童が4名参加しました。住んでいる地域は異なるものの、この場を通して、それぞれが繋がり、親交を深めています。同じ境遇の外国籍や外国につながる子どもに会い、安心感が得られるという目標を達成できました。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>本事業は、都筑区役所地域振興課の後援が事業運営に大きく働き、地域の商業施設（みなも港北）、企業（JA横浜、有限会社グランジャボン）が会場を無償で提供してくださったばかりか、結果的には企業をはじめ、行政が当法人に子ども多文化交流事業を受託する（11月15日都筑図書館の企画として多言語読み聞かせを予定）という結果をもたらしました。</p> <p>おそらく、本事業の現場でそれぞれの担当者が間近で事業の進行を目にしたことが効果的だったと考えます。毎回、企画を終えるごとに行政や企業の方から事業の受託のお話をいただくことができ、当法人の外国人メンバーが務める企画としてのクオリティの高さと価値を再確認しました。</p>		<p>多文化共生は、関心がある人だけが集まるのではなく、異なるカテゴリーとの掛け合わせで、よりスケールアウトできると考えます。その際、どのようにして地域の多様な主体と協働し、コラボレーションしていくかが課題になりますが、今回のように行政が繋ぎ手となり、同じ課題に対して違う角度から取り組むと効果的だということを本事業を通して実感しました。</p> <p>今後は、共通の目標を設定し、それを達成するための評価の策定を含め、話し合う場を設けることを期待しますが、まずは、同じ地域の多様な主体が社会課題を共有する100人会議のような場が都筑区界隈で立ち上がると良いと感じました。日本人のみならず、日頃声を届けにくい外国人在住者の参加を促し、多様な人たちの声を吸い上げながら、地域の社会課題を見える化する作業を区役所の地域振興課が中心となって実施することを提案したいと思いました。</p>	
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			
この1年間の活動を通じて	103名の児童が参加（外国につながる児童65名、日本人児童38名）		を達成しました。
■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）			
<p>外国につながる児童の中でも顕著だったのは、日本の学校に馴染めず、自宅でホームスクーリングをする子どもが4名参加したこと。まずは、地域の児童と接する場に足を運んだことを意義ある変化と捉えたい。</p>			